

おれんげニュース

No255

2011年6月号



4月24日 産山から山吹水源を散策した。雨ならではの美しい景色

★集会・委員会・行事のお知らせ★ ★4月から会合の曜日が水曜日です★				
	6月	7月	時間	場所
運営委員会	8(水)	6(水)	19:30~22:00	西諫早公民館
ひまわり集会	3(金)	1(金)	13:30~15:30	
全体集会	22(水)	20(水)	19:00~22:00	



産山のうつくしい景色と
可憐な花たち



オキナグサ



サクラソウ

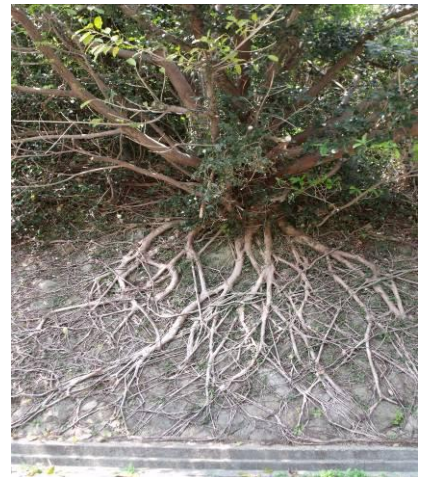


ツクバネソウ

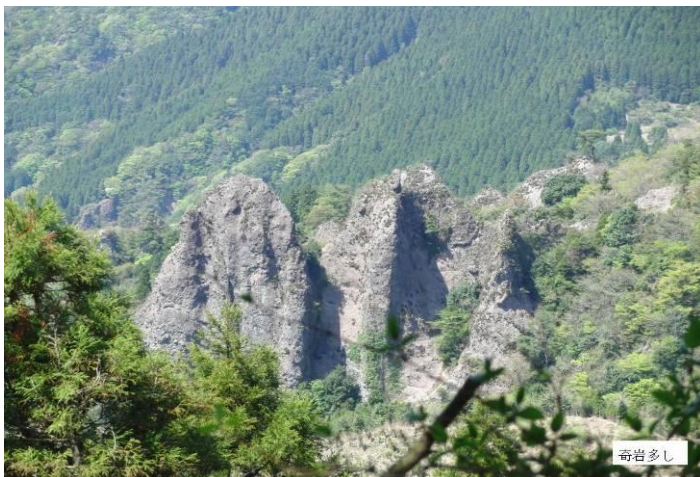


海の底まで透明でした。

橋がかかったばかりの
伊王島へ
でかけました。



大岩に根を張ったたくましい木



↑・→
釈迦ヶ岳
大日ヶ岳
4/29



6月



山行計画

部	山行部	ひまわり山行部	自然保護部	技術研修部
月・日	6月5日(日)	6月10日(金)	6月12日(日)	6月26日(日)
山名(行事)	オープンハイク 指山(1449m)	九千部岳(1062m)	クリーンハイク 御館山(99.9m)・ 上山(122.4m)	沢水キャンプ場 鳴子山(1643m) 稲星山(1774m) 白口岳(1720m)
地 図	湯坪	雲仙・島原・愛野	諫早	大船山・久住・久住山
集 合 時 間	JR 諫早駅 7:00 JR 西諫早 7:10	西諫早駅 8:00	御館山広場 9:00	JR 諫早駅 6:00 JR 西諫早 6:10
難 易 度	初心者	初心者	初心者	やや健脚
帰着時間	18:00	17:00	16:00	19:00
歩 行 時 間	3.5H	3.5H	3H	5.5H
交 通 手 段	マイクロバス	マイカー	各自	マイクロバス
宿 泊 施 設	日帰り	日帰り	日帰り	日帰り
温 泉	有り	有り	無し	時間次第
参 加 費	5000 円	車両使用料規定		5000 円
申 込 期 限	定員になり次第	定員になり次第		定員になり次第
集 約	田中	江崎	中村	佐原
備 考	指山自然観察路 や 美術館巡りも楽し めそう	ヤマボウシ見学でき ます	火ばさみ・レジ 袋・弁当持参して ください。	白口岳の コケモモ 稲星山の ミヤマキリシマ
感想文提出	6/15	6/20	6/22	7/10

技術研修部だより

5月27日(金) セルフレスキュー (JR 西諫早駅 9:30 集合)

6月25日(土) セルフレスキュー (JR 西諫早駅 9:30 集合)

7月30日(土) セルフレスキュー (JR 西諫早駅 9:30 集合)

6月28日(水)全体集会にて 沢登り講座(夏の暑さを乗り切るコツ)



7月



山行計画

部	ひまわり山行部	山行部	技術研修部
月・日	7月15日(金)	7月23(土) ・24(日)	7月31日
山名	石谷山・九千部	国見岳(1739m) 大金峰(1396m)	小屋ヶ岳(991m)～ 笈吊峠縦走
地図	中原・不入道	国見岳・葉木	下河内・耶馬溪西部
集合時間	西諫早駅 8:00	諫早駅裏 7:00 西諫早駅 7:10	諫早駅裏 6:00 西諫早駅 6:10
難易度	初心者	やや健脚	中級健脚・ ゆっくりコース有り
帰着時間	17:00	19:30	19:30
歩行時間	3.2h	1日目 1.5h 2日目 5h	4/5h
交通手段	マイカー	マイクロバス	マイクロバス
宿泊施設	日帰り	民宿(佐倉荘)	日帰り
温泉	有り?	有り	有り
参加費	車両使用料規定	15000円	5000円
申込期限	定員になり次第	定員になり次第	定員になり次第
集約	江崎	田中	佐原
備考	樹木の種類も 豊富	熊本県下の 最高峰に登る	オオキツネノカミソリ 有り
感想文提出	7/20	8/7	8/10

技術研修部多良岳研究企画

7月1日(金) 多良周辺の散策(イワタバコも咲いてる時期です。)

JR西諫早駅 8:30集合 マイカーでいきます。

鬼の門～鬼の岩屋～本多良～多良北壁周辺散策～役の行者～金泉寺～六体地藏

(参加希望者は川原まで。電話で申し込んでください。)

4月・5月の山行報告



4月24日（日）

県連主催：「産山高原～春の花観察ハイク」

<参加者> 坂口 山下 松園 田中静 国分 計5名

<行程> 諫早 IC 7:25→九重 IC→10:30 瀬ノ本（参加者合流）→11:00 産山入り口～散策～11:50 ヒゴタイ公園（昼食）12:20～散策～→14:20 山吹水源→15:00 花の温泉館 16:00 発→諫早帰着 19:20

<感想>

県連の登山学校主催による「産山～春の花ゆっくり観察ハイク」に初めて参加した。

参加団体は6クラブで総勢51名（カルチャー18名・東部2名・オレンジ5名・あゆみ15名・南稜6名・こもれび5名）の大所帯である。3台の車に分乗して出発していたので、瀬ノ本高原で一旦合流してから産山へ。小雨模様なのでここで全員雨具装着。

山なみハイウェイを熊本方面へ少し下ってから左折し、ヒゴタイ公園へ向かう道の途中で下車。登山学校担当講師の塩田幸助氏が作成した「産山の花たち～春編～」という色刷りのプリントを片手にいよいよ散策スタート、野焼きが終わった高原に最初に発見したのはオキナ草である。一つ見つけた後は次々に見つかる。地味な花だが、道路端に咲いているので盗掘にあうことも多いようだ。実際掘られたような跡がいくつかあった。以下この日見つけていった花々～ミツバツチグリ、キスミレ、ヤマハハコグサ、ネコノメソウ、フモトスミレ、サクラソウ、ヒメオドリコソウ、ヤマエンゴサク、セントウソウ、エイザンスミレ、ツクバネソウ、タチツボスミレ、カキドウシ、ハルトラノオ、キランソウ、ハルリンドウ、ヤマルリソウ、エヒメアヤメ、チャルメラソウ、ハナワサビ、アマナ、連翹、椿、山桜、こぶし、ミツバツツジ等々である。



水辺に咲くネコノメソウを眺める人たち。



ヒゴタイ公園で昼食後は公園内をキャンプ村の方まで下り、散策の続きを実施した。どこからともなくオカリナの音色が聞こえてくる。参加メンバーの一人がエーデルワイスを奏でていた。優雅・・・である。参加人数が多いため列が長蛇になっても、山野草に詳しい人が適所にいてすぐ教えてく

れる。オレンジメンバーだけだと「何やろうかねー」で終わってしまうところだが、今回は疑問符を抱えたままという場面が全くなかった。

公園散策後は山吹水源に向かう。以前は川岸の道を歩いていたそうだが、今は道が整備され駐車場から 500m と標識がある。塩田講師が時々川岸の道に下りて以前はあったというわさびの痕跡を探す。川岸からはずれた場所に白いわさびの花が 2 輪咲いていた。山吹水源には湧水がふつふつと溢れており、透明な水面には周囲の木々の新緑が映っている。山下女史が水源に映る色とりどりのレインウェア姿を写真に撮っていたが、あの写真はなかなか素敵であった。(ニュースに載るかな?)

最後に花の温泉館で汗を流す。こんな大人数で大丈夫かなと案じたが、どうにか収容可、いい温泉だった。席が隣あわせたカルチャーの方々との交流も含め、初めての場所と初めての経験に満たされ、帰りの車中も県連の塩田泰子理事(登山学校委員長)の名進行のうちに帰路についた。(記録: 松園)

4月25日(月)

伊王島一周

(参加者) 小山 松尾(香) 江崎 中村 本秀 林 岩永(のりこ) 山本 山口 森(寿)
松園 金丸(直) 川内 会員外 3 (16名)

(行程) 諫早駅 8:46—長崎駅 9:17—長崎駅前バス停 9:30—伊王島大橋バス停 10:25
伊王島大橋 10:40—10:55—沖之島教会 11:05—伊王島海水浴場(昼飯) 11:50—
12:40—伊王島灯台公園 13:05—13:25—俊寛広場 13:55—やすらぎ伊王島 14:10—
ジェットホイル 14:53—13:10—長崎駅 16:00—諫早駅 16:34

(感想)

長崎で勤務していた頃、伊王島には公私で訪れる機会が多かったので「伊王島はもうよかー」と思っていたが、今回香焼と伊王島を結ぶ出来立て伊王島大橋を歩いて渡ると言うので参加した。

今日は昨日と打って変わって快晴で心も弾む。JR で長崎駅まで行き駅前から伊王島バスターミナル行きで小ヶ倉、深堀、香焼を経て橋の手前の伊王島大橋まで行った。橋の手前の広場でトイレを済ませ、小山先生が「自然を壊して出来たこの橋を見て見知らない外国に来たような複雑な気持ち」と話されるのを聞いた。

「さあー、橋の渡り初めだ！」風は多少あったが青い空、青い海、高島、軍艦島などの島々が見えて美しい。海の水はあくまでも澄んでいて陸地に近づくと海底の石がはっきり見える。橋は思いのほか短く 15 分で渡り終えた。

島で最初に行ったのは沖之島教会(俗称馬込教会)、天主堂の尖塔が立派である。近くに墓地があったが皆キリシタンの墓であった。次に伊王島海水浴場に向かった。



海水浴場の奥に橋でつながった小島がありそこで釣りを楽しんでいる人もいた。島を一周したが絶景で五島への船も行き交っていた。それに島が波に侵食されたのか岸壁に色々の模様の波型が付いていて珍しかった。この海水浴場でゆっくりと昼飯を楽しんだ。次に伊王島灯台公園に行った。一番奥に灯台がありここからの眺めも素晴らしかった。俊寛僧都の墓碑や北原白秋の歌碑がある広場を通り、そのままゼットホイールが出る伊王島港ターミナルに直行する人、やすらぎ伊王島に立ち寄って温泉を楽しむ人と思いに行動した。私は入浴しないがやすらぎ伊王島に立ち寄ってみた。橋の効果か月曜日と言うのに宿泊客かカウンターに並んでいた。

ゆっくり温泉の4名を残し、予定より早いジェットフォイルで帰った。快晴の中ゆったりと絶景を楽しむことが出来幸せな一日でした。

最後に気になることを一つ、この島には野生のタヌキが住民を恐れることなく近くにいるらしいが、立て札によればこのタヌキがゴミをあさったり、人が餌を与えることにより疥癬の感染が広がっているとのこと。現に見るも哀れな毛が半分抜けてヨロヨロしたタヌキを3匹も目にした。橋を渡って島外に広がらないことを願っている。

(川内 美智子 記)

4月29日(金)

釈迦ヶ岳(844m)、大日ヶ岳(826m)

(参加者) 福岡、川原、坂口、鎗水、田中(静)、山口、下釜、金丸、中須賀(9名)

(行程) 6:10 西諫早～8:23 斫石^{しゃくいし}トンネル登山口～9:50 大日ヶ岳～12:25 釈迦ヶ岳
～15:30 深倉園地～18:50 西諫早

(感想) 斫石トンネル登山口(8:23)着、体操と地図でコースの確認をして出発。

急な坂を登って行くと、道のわきに大きな石を根っこで包み込んだ木を見つける。

こんな大きな木を山で見たのは初めてです。アンコールワット(カンボジア)で見た巨木を思い出しました。

少し行くと分岐点があり、最初に大日ヶ岳に登ることにしました。進むとすぐに岩場になった。2mほどロープを頼りに降りる、次に岩場をトラバースする。岩の上も歩けるが、バランスをくずすと谷に落ちるので注意が必要である。

次に道幅の狭い箇所を渡るが、両側に木が生えているので恐怖心はない。

少し進むと今度は急登になった。落ち葉も多くて非常に滑りやすくなった。途中でロープが張ってあり利用しながら慎重に登る。

第一のピークに着くと周りにはミツバツツジの花が咲いて雰囲気も良く、ほっと一息つく。前に進む。岩場を乗り越え、梯子を上り下りなど難所が続く。

大日ヶ岳(9:50)着、展望は良くない。記念写真を撮り、愛敬岩(男岩、女岩)を見に



先に進む、(10:15)着。女岩の裂け目を5mほど登ったり、男岩に登ってちょっと遊び大日ケ岳にもどる(10:47)着。



下りは登り以上に歩きにくく大変でした、最初の分岐点にもどり(11:45 着)、少し直進すると左に登る道があり、釈迦ヶ岳へ向かうが頂上まで急登で疲れました。

釈迦ヶ岳(12:25)着、展望は抜群で英彦山もぐっと近くに見える。遠くは阿蘇や九重も見えるそうだ。頂上で昼食をすませ(13:05)出発。

登りと反対方向に下る、急な道を下った所に表板があり岳滅鬼山の方向へ進む。

倒れた木が多く道をふさぎ歩きにくい、ピークを三つ越えた。香岩越と書いた板が木にかけてあった。ここから尾根道を左に下るが、登山道は荒れているし、やせ尾根、道は急で最悪。慎重に行動する。

深倉園地(15:50)着。大きな岩があり慈母観音が祭ってありました。この山は変化があって楽しく、すばらしい山でした。次は秋の紅葉の時期に来てみたいです。

時間がなく風呂なし、西諫早(18:50)着。

一言！

このコースは初心者向きではない
多人数でぞろぞろ登るのは危険
雨の日に登るのも危険と思った

(福岡 正廣 記)

5月2日・3日

石堂山・天包山

◎天候：5/2：曇り～晴れ、早朝から黄砂、5/3曇り後5時過小雨～本降り
(参加者)：CL川原、SL福岡、救助：中須賀、松尾(敏) 田中(静)、山下、浦田、
会計・下釜、林、 合計9名

(行程)&(感想)

5月2日 6:10 JR西駅発—7:00金立(トイレ休憩)—7:30東背振(本日は料金休日あつかいのはずだが?)—8:35高速緑川(トイレ休憩)*CLのK氏の車中談話：「本日はS氏不参加のため林氏がSUBに昇格とのこと」—9:20山江(トイレ休憩)：本日はなぜか休息多い、F氏参加だが、「朝からはなあ？」9:30 高速人吉<国道219号へ>あさぎり町：お茶の畑団地を通過：本日は夏も近づく八十八夜だ。—9:50球磨川農道の小さい橋で横断。10:10ガソリン(給油)—多良木町通過—10:50西米良村環境センター横の急角度道のため行き過ぎてから転換、ここから登山口への殿様街道・花街道を通り天包山方向へ。道名の由来は後述しましょう。

11:10 天包山登山着(街より30分ほどでコンクリート舗装のわりと広い駐車場)

大きなコンクリートの記念碑：西南戦争の碑がある。ウォーミング体操後出発。—11:20坊主岩到着。明治10年の西南戦争時この岩を挟んで官軍と西郷軍との激戦、この岩に上がると雨が降るとのことだが、明日までは晴れてほしい。全員登り記念撮影。下方にガラスハウスあり：花の栽培地とのこと。

11:45同発、登路の木には順路が示され、米良三山やま開きの標識、4/29が米良地域は山開きの日であったとのことのように。

穏やかな松の落ち葉の柔らかい登路、みつばつつじ、どうだんつつじの林も。

12:10頂上着。アンテナ塔や木製の展望所あり周囲展望・見晴らしは全方位、市房山、明日登る石堂山も見える。しかし黄砂は依然として残っておりぼんやりの世界。



井の上ドライバーがカメラマンに

ゆっくり昼食、我々以外の登山者なし。頂上の原っぱに黄色い花：きじむろ??

：Y氏はみつばつつじぐりとの意見。周りには山つつじ。キアゲハも飛翔中、三つ葉つつじ、すみれ、名前不明の2種の花等も。

12:50下山開始、下りはすいすいと20分で、13:15駐車場着、ここの原っぱにはワラビがあるが、すでに採集の形跡もあり。—13:30同発。

時間も十分あり、「かりこぼうずの里」という村の中を探索することにする。

14:20小川作小屋村着、西米良村の旧領主の城跡地とのこと。菊池則忠という名藩主が明治の世代わり時、領民に林地を均等に配分したとのこととで尊敬されその子孫も地域の名家としてしたわれており、この地は今日の「小川作小屋村」として地域興しの源泉であるとのこと。明日が年に一度の山菜祭りで村民そろって準備を進めているもよう。15:15同発

15:50双子キャンプ場着、バンガロー泊だが、すぐ横に「ゆた一」という温泉じげもん店もあり便利の良いキャンプ場。おまけに電気水道ガスもある。

時間も取らず荷物整理も済み、男性陣は早くも一杯が始まる。

16:20女性陣は早くも入浴へ。17:00男性も入浴に。いやいやここの湯のぬるぬる穏やかなこと。疲れもとれそう。

18:00より夕食。川魚の刺身、ヤマメか?・・・こんにやくの刺身も（見た目には高級魚の刺身にも見えたが）。ビールで乾杯・・・酒は部屋：バンガローでとの事、皆早々と済ませてバンガローへ。男陣は続きの酒盛り・歌も出て、9時すぎまでにぎあう。

21:30就寝

5月3日 3:30目覚めるも朝はまだまだ。

5:30起床、5時頃より周囲ややざわざわ。おまけに雨音のような音も。濡れた様子はなく、バンガロー下の川の沢音であった。

6:00朝食、濃いぎみのみそ汁にみそ漬け、ししゃも焼き魚のおかずで朝食。

7:05キャンプ場発、わりと早めの出発。昨日とは異なるコースで花街道を通過し天包山への分岐を右に見て石堂山の登山口へ。

7:45登山口着、石堂への分岐より10数分で登山口に着。既に数台の登山者の車。準備体操を済ませ、我々は一番先の登山口から発つ。

7:55登山開始、曇りだが、雨にはなるまいと判断。スパッツを着けた人も。

ゆっくり組と健脚組の二手にわかれて発つ。初めは穏やかな杉の植林帯の横ばいの登路、ついで急坂となり10分もせず6合目の標識に着く。—8:12にいいいよここから植林帯を過ぎ見晴らしの良い上り坂、北に市房山も見える。すぐ右の林には山シヤクヤクとのF氏の声。ガレをすこし下る必要あり。Y・S氏らは撮影に。小生とM氏は

先を急ぐ。—8:43、7合目。6合目からここまではひどく長く感じられる道のり。

地図を見ながら林道出会は未だか未だかとおもいつつ歩く。

9:05、林道出会。1時間10分でやっと林道。5分ほどの林道歩きの後急坂となる。

濃紫色のみつばつつじがあらわれる。ここからは道もジグザグとなり、新しい鎖も着けてある、今回の山開きで新設したのではと思われる。

9:15、8合目、ここを過ぎ9時20分頃よりお目当ての「あけぼのつつじ」がやっと現れる。株の大きさは諸塚ほどではないがまあまあ大きさ、色はやや薄い。

9:47、9合目、途中から我々の前を行っていた一人登山の女性が遅れぎみとなり前後して登ることに。最後の急坂を越えて10時10分頂上。前方位見晴良好。

しかし曇り。おまけに昨日からの黄砂でぼんやりで残念。おまけにポツリポツリと雨も。記念撮影後すぐ下山。3カ所の鎖場と痩せ尾根を通過する必要あり。雨がひどくならない内にと10:17に下山。先を急ぐ。—10:33:9合目—10:52:8合目、20分で1合目を下りた勘定となる。—11時30分前に登り時にあった山シャクヤクの横、ついでにと撮影。ここで10分程度かかり下山は12時過ぎかと思ったが。6合目には11:50。—12:00丁度に下山完了。先着のゆっくり組はのんびり。昼食後12:50に登山口発。



13:00。菊池氏記念館（先述の名君菊池の殿様の記念館）：名女性案内人の解説あり。館内展示の武者甲を着けて記念撮影。

いよいよ雨も降り出したのでそうそうに帰途につく。—13:30同発

14:40人吉茶湯里着、温泉入浴、男性は小生だけ入浴、他の人は呑む一方のよう。

15:30同発、向かうが田舎道にしては渋滞。

ガソリン給油所で聞くと高速で事故のため、ここまで混んでいるとのこと。

高速人吉には16時過ぎに入る。高速はかなり渋滞で松橋では事故もあり益々遅滞とのこと。天は曇りつつ、ついに雨もかなり降り出して車内は急ぐ心あるもしようがなく、男陣の高音の歓談の声。

女陣も負けじと歌う。小生も謡曲を解説付きで3番披露。

16:30高速緑川通過、この分だとここから諫早は4時間はかかる。

熊本を過ぎ久留米の前の柳川で高速降り鹿島経由が早いとの井上運転士の判断で柳川に降りる。

21:15～21:30西駅前全員無事帰着（須賀山人 記）



元「こもれび」の藤瀬さんが、退会にあたって当「オレンジハイキング」へもお礼状がとどいています。

今後の藤瀬さんのご健康とご活躍を祈念してお知らせいたします。またいつの日か、御一緒できますように・・・。



エイザンスミレ



ヤマドリソウ



女岩にはまり込んだ男

女岩にはまりこんだ男というタイトルの写真
モデルは不詳(笑)撮影・Y氏。4/29 釈迦ヶ岳



なぜか高い所に登りたがる
M氏。この日も坊主岩に。



↑1日目。楽ちんコース天包山へ 5/2
←天包山の頂上の展望東屋にて。



登ると雨が降ると云う坊主岩に8人ものぼった。
次の日、午後から雨だった。



孤独な岳人、K氏、振り向く。



石堂山を下山中。ブナの木と新緑の尾根道が美しかった

おれんじニュースNo255	
発行元	オレンジハイキングクラブ
発行責任者	福岡正廣
編集責任者 及び 原稿送付先	山下ちず子
発行年月日	2011.5.25
財政担当	
郵便振替講座	
ホームページ	http://orangehikingclub.web.fc2.com/



石堂山頂上近くのアケボノツツジ